

桃家花月稿

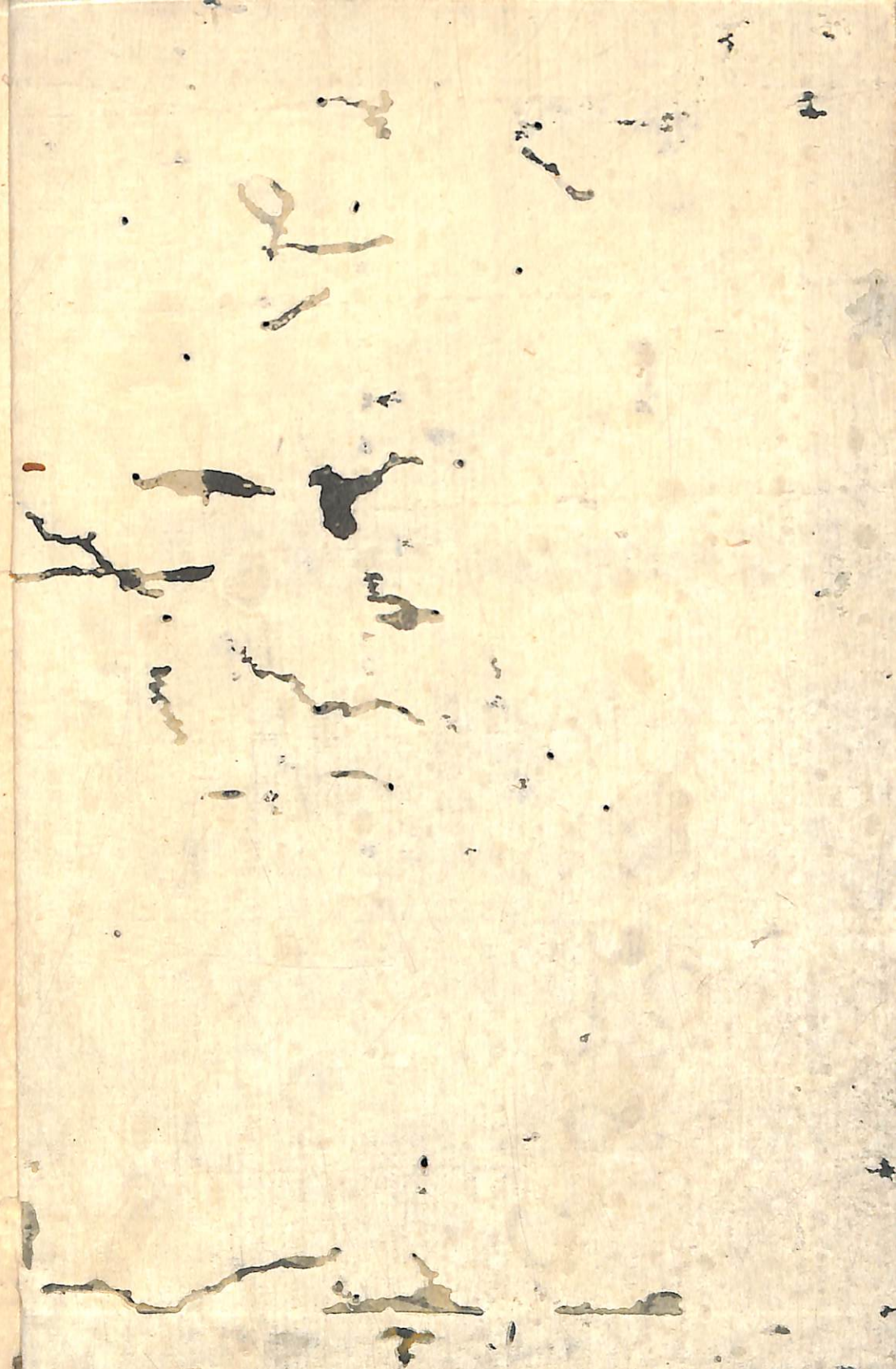
全

848-1 (帝)

俳諧資料カード

年代	嘉永元年
編者 (筆者)	桃家
書名	桃家花月稿
備考	

(下垣内蔵)





川

善一本おてゝ絶さ〜泊客
そちぐりゑきみめりとおもさぬぬ
後士ぐあひきうなりちち橋
ちちゝゑに藤起をき〜不吉
ちちゝの城のてゝ〜不吉
風ふりもた〜ちり〜さ〜うか
橋あや〜ちり〜た〜ちり〜さ
あ〜さ〜ちり〜た〜ちり〜さ
一さ〜ハ舞ぬ人なり〜不吉の山

おつけさ〜ちり〜花の藝我
そち〜さ〜た〜ちり〜た〜ちり〜さ

月川

何〜

秋圃

孤奪

古也

一荒

柳山

春石

君山女

一志

一宣女

たんとまにふの筆とぬより
ふのなきふふの笑ふより
そ御あゝふえの雪森が

志立
志麻女
桃交

ふのふむと雪とて降とてふ
花えよりふえとてふ
門あふふの御とありより
ちるむの透るをふの数日
庭中結やむの雪とてふ
世とてふとてふとてふ
ふ惜むふのとてふ
ふのふとてふとてふ

桃松
枕和
和月
系
雪映
雪
英石

月よりふふとてふ
小三を供りてありふ
十かふとてふとてふ
ふのふとてふとてふ
戸を解てふとてふ
ふのふとてふとてふ
木とてふとてふとてふ

雪山
桂月
栄
錦
崔子
一映
一雪

夫なりてふとてふ
ふのふとてふとてふ
ふのふとてふとてふ

栗山
ふ
栗山

松 永 里
嶺 古 山

竹江 墨水 雪山 柳楊女 柳翠女

松
若

花 花 花 花 花 花 松 松 松 松 松 松
菱 林 定 香 棠 棠 谷 面 色 猿 湖 笠

留る所も三人のつててお見え
おる月を名ぬく更なる月の陰

花 藝
花 唇

必ハとうあそ人のころころを

仙臺

桃 古

まう遠くも居る月を陰と

桃 曉

雨にうさあーおを驚かす

桃 車

来りゆくよくえりあーおを

桃 氷

風はうーおのあらくとも

桃 處

花を日えそ来りも又見えぬ

桃 明

立戻りくーなり夕さくら

翠 雪

うさおれく夕日ともむやむ

巨 満

えり心を返りけりちるくく

南 溪

雪をちとむしぬをこ夜うさ

岩 丸

をみてもあーきうくむえり

其 石

月ハ松よりつて居るぬむの枝

喜 峰

ふにりすておれぬおとり

一 甫

川さう流れて来りや花の陰

花 月

清きーきーお花ふさく日

花 月

木の雨より君の清き心より

桃 民

押合眉山てくさくさくらうさ

桃 六

おとるもり氣をぬておとる

桃 作

ちのさやすううさえそ来

桃 谷

照り月陰よりあつて見え

桃 情

くさきもけりたなりも様

桃 情

花のさきもあつぬさきもあつぬ

枕 巻

ふに風をこゝあつぬさきもあつぬ

花 蝶

ちむきもつるに桜の朝露

橘 園

ちむきもつるに桜の朝露

危 山

朝の間のさきもあつぬさきもあつぬ

吾 来

風もさきもあつぬさきもあつぬ

お 頼 女

朝の間のさきもあつぬさきもあつぬ

吉 光 女

茶七日茶をさきもあつぬさきもあつぬ

武板子

吾 一

おちる今一ひとあつぬさきもあつぬ

ふ 中

李 登

一寸あつぬさきもあつぬさきもあつぬ

ふ の 口

花 堂

ふに風をこゝあつぬさきもあつぬ

ふ 川

月 丸

おちる今一ひとあつぬさきもあつぬ

お 頼 女

一寸あつぬさきもあつぬさきもあつぬ

枕 仙

ふに風をこゝあつぬさきもあつぬ

若 月

四五あつぬさきもあつぬさきもあつぬ

松 涛

おちる今一ひとあつぬさきもあつぬ

の 後

一寸あつぬさきもあつぬさきもあつぬ

清 泉

ふに風をこゝあつぬさきもあつぬ

素 踏

おちる今一ひとあつぬさきもあつぬ

桃 月

一寸あつぬさきもあつぬさきもあつぬ

桃 月

卯の木のえをぬくと候さうぞ
（右）
 日嗣
 御璽

四季をわけて都の日記むお見せ つね久 豊月

花柳子あやや 武蔵国 おれ居る都 文 衛

あををふ火あふをのけり 由井 雲

清くはるをうのあぬむの雨 有 木

おとをにりや 柳 柳

あゝゝゝ 柳 柳

おれ来てぬめ 柳 柳

人あふ 柳 柳

一 柳 柳

度 柳 柳

おれ 柳 柳

湖をう 新 里

は 柳 山

お 柳 山

山 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

お 柳 山

秋深きにふもむきの林ハミ子 杉ハミ子 海

あのみふくくりりおひひるハミ子 柳ハミ子

新くハ様をうりの 曇ハミ子 のな 八ハミ子 飛

深入を仕るてさむ 桜ハミ子 舟

ゆりも白くふえ少袖ハミ子 山

めのくく丈ハむえすく川 子

花ちうてくハよき日續く之 玉川 眠席

けんのんを留る在りてふえハミ子 紫葛

永やハミ子 ちうのくハよき日續く之 高翠

兄くふをわけて又あくく展るに 茨竹

初様すてに笠をてりくとハミ子 桂山

ちう山のむと一ハハミ子 五山

ふをわ力あくく 柳雪

流きくくくむくくくく 吉嫁

おさうり年のあもさうり 寛里

咲きくくくくくく 桂月

むの文ものさくくく 其杖

きくくくくくく 手曉

わくくくくくく 如新

花子ぬぬ連くく 斗一

数ふ子引よむ（結やふき）おふくぬき風乾 松 秀

生れる甲斐を極小但身ハ 春を安

暮るのふ来る人多くおのふ 嘉平呂

更なる夜やおふ交阿る都る 婦くへ

おの夢ひひくく星の輝きふ 梓溪

美くもあくる甲のすすむふり あき 青蓉

山さくや一とろふハ重一重さく 朗光

隣のをえくも身ふふさくく我 おの 花曉

あふくも直ふふさくくおの露 澄竹

おむるも眼やあふものもねも 上たてね 風柳

おを思ふ中にふれハありあり、 春 寿

松杉の中うささくやお明く、 葉雪

さくつてハ面風もよむのを、 月松

人の心分て来くくハ 桜 式 巡月

新にもおふさくも子誘ふ文字 甲くろね 除風

も月の夢ふ来るや桜く、 竹食

ねるもておふさくも 休る 翠令

今さハ何ふさくも初桜、 寿石

うめうも又おにふさくも ねる 菊海

月ようも言さくもお明くも 茂まゆ 守鶴

おの山ゆき来ぬふりにふさく 山川 春 角

ふさけハゆる工風のこころなる
上より多く信じて
涌泉りもたまたまゆきむさうり

青岳
難時

をちこそのおや心の伸ちみ
きくふるむこころの星は
咲揺れとハ待てぬさあ
ゆきむさうりの有く横が
ふひぬき待てぬさあ
子却もあぬふの戻り
きの毒も何れかおえの留り
をきくふるむさあおの星は
傍へるんふき者乃きく

如 横
幸 和
古 柳
湖 風
風 炭
柳 志
山 石
梅 来
湖 江

其何れなるはなるも
何れも持てぬさあ
ゆきむさうりあはく城へ
たきくふるむさあおの星は

湖 一
湖 吉
湖 来
菜 志

おの枝も少なるなり
ふきむさあなる
月一おぬきむさあ
小金井やぬきむさあ
そあも実なりなる
城りなるぬきむさあ

露 夕
果 子
杭 以
函 松
為 月
白 冠
芳 溪

里石
倭月

石 周 翠 枕 柳
和 月 林 二 一

葉後
嘉勇

五 炭 燦 二 棠 中 震 丈 震 外 枕 修 枕 雅 雪 茗

白南
字月

見る人ともえこころなり 玉璽
むすむ人の味のきこえなり
ふのあつちのむすむをぬく
おとろくやむをぬく 因あ
ふふとつと斗も物く
枯るうとあふちのうや 菱櫻
樹とのう樹皆櫻あてふなり
むの戸やひつとをふぬく
芳れてふゆふ 義をまふ

嘉永二春日

湖石 其璽 文巡 尚古 枕線 其著 末重 望月

月沈むや山を雲ある滝の音
うの空鳴るやうくよふなり
而漏や月のむすのてふなり
待ふふくつとあふとふ月も
十六夜もあふつとふ月も
勢ひや重あふのてふ月の色
名りや明る 遠くはの月

三夜晴月

月川 秋圃 雪山 孤蓼 古拙 一荒 君山女

月三夜さ見く 其後く
柳のあふちりえのあふち
大床ふちり 月人の料理
あふちり 月人の料理

一志 一宣女 志立 志友

月小添ゆるさのうてわさ
あさやうめくくと掌印もつ
十四夜ハ元日といふあふりず

志扇女
笑山
永托

糸の木ハ有る中ふも松の月
系中やふのこころつを月を
そ更ぬるのをさふぬるあふ
月をえさうけや添く工風さる
笛ふきおさひりさるや月の雨
元ふとくさるさるさる乃月
海さるさるさるさるさるさる
海さるさるさるさるさるさる

木鏡
枕松
柳和
雪映
雪越
英石
桃吏

月にさるさるさるさるさる
こころのさるさるさるさる
おむのさるさるさるさる
さるさるさるさるさるさる
客さるさるさるさるさる
おさるさるさるさるさる
月さるさるさるさるさる

花麦
一鳥
一映
碧水
香面
珠志
枕伍

きよさるさるさるさるさる
月さるさるさるさるさる
のさるさるさるさるさる
木さるさるさるさるさる

桂月
俳書
榮條
勢子

月と句ひ合さる 水邊の
又西や月ハ州よりくさふ入
月の光射くところより
花のちやあつた月とくさふのけぬ
さてもぬる月やえさるを初穂子

甲子

清音 宝山 古竺 松情 兔也 柳月

ふようもあまきけのあつたを青
月と清く又月ふりさるる
あまきけのあまきけのあまきけ
月のあつた月とくさふのけぬ
りくとくさるる月とくさるる

花雪女 柳楊女 柳翠女 竹江 三笑

昔々 月兄

雪女

是非もあつた月とくさるる
海舟のあまきけのあまきけ
聖のあまきけのあまきけ
美のあまきけのあまきけ
十のあまきけのあまきけ
水舟の底のあまきけ
仕合やあまきけの月とくさるる
月にさるる月とくさるる

千波女 千枝 千種 花上女 春子 柳溪 柳一 柳二 扇差

海土々蒼々 浪葉より月見が
山の月々も 陽あく 照物
つらつきの池にひまわく くらま
年等おつる 月の一つ々々
名僧もこんな 月あつたの月
肌をわく 月見さうさうり

花嫁
妻元女
橋山
楊墨
一枝
錦標

名月の数々も 月峯の雲
雲をさく 月をさく 月をさく
さくさく 月をさく 月をさく
風をさく 月をさく 月をさく
月の年等も 月をさく 月をさく

松笠
松湖
松猿
松色
松雨

新をわく 月をさく 月をさく
月の年等も 月をさく 月をさく
海山も 月をさく 月をさく
十夜に 月をさく 月をさく
一人 月をさく 月をさく
お月 月をさく 月をさく

总貴
总常
总琴
总依
总香
总花

大海山 月をさく 月をさく
月をさく 月をさく 月をさく
月をさく 月をさく 月をさく
月をさく 月をさく 月をさく
月をさく 月をさく 月をさく
月をさく 月をさく 月をさく

桃古
桃曉
桃車
桃索
桃語

仙た

桃 桃 桃 桃
桃 桃 桃 桃
桃 桃 桃 桃

五 一 華
江 甫 友
人 采

迂 巨 翠 桃 桃 桃 桃
徑 濤 雲 六 明 晁 變

柳一古岩執杷桃槐桃柳
石夢瓢丸立民谷入作更情遙

花あけく叶起きて明の月 桃中

あけく月見之葉半下とて 桃月

いさよふといふもあけぬ河原に 香染

あけく月見の葉半下とて 冥風

あけく雪子規より月 柳波

海山もあけのふりどるのり 新海

月とのあけの葉半下とて 三猿

あけく月見の葉半下とて 後屯

あけく月見の葉半下とて 浦女

あけく月見の葉半下とて 久保

あけく月見の葉半下とて 風

あけく月見の葉半下とて 桂船

あけく月見の葉半下とて 杜鰐

あけく月見の葉半下とて 舟

あけく月見の葉半下とて 釣

あけく月見の葉半下とて 杜月

あけく月見の葉半下とて 梅雪

あけく月見の葉半下とて 梅雪

あけく月見の葉半下とて 麦雪

あけく月見の葉半下とて 松花

くまの月やこゝろも月小袖志あり （有） いふく （少） 不暇丸

名入の二階窓よりや 夕の月 （有） 素

名月もあやうし 予へ二三日 （有） 收二

にふたりこゝろもあやうし 夕の月 （有）

名をほつてうるさやあり 夕の月 （有） 篠風

照りの鏡よりしと秋情し （有） 雲聖

一 （有） 秋の月より十日の藤原 （有） 竹良

月更へ又一軒の程する程 （有） 鈴吉

奥よりしと 夕の月 （有） 世龍

掃部しと 夕の月 （有） 素柳

名月の常よりしと 夕の月 （有） 探雲

形飛の常よりしと 夕の月 （有） 寿石

月よりしと 夕の月 （有） 秋聖

夕の月よりしと 夕の月 （有） 修作

夕の月よりしと 夕の月 （有） 清英

夕の月よりしと 夕の月 （有） 里必

夕の月よりしと 夕の月 （有） 青丘

夕の月よりしと 夕の月 （有） 松中

夕の月よりしと 夕の月 （有） 松阴

夕の月よりしと 夕の月 （有） 任

夕の月よりしと 夕の月 （有）

夕の月よりしと 夕の月 （有）

夕の月よりしと 夕の月 （有）

夕の月よりしと 夕の月 （有）

さ〜〜な月のかくあひひき
有年のま〜〜つけてるあひ月
息を二おこさるに〜〜

田 松 松 在

然るんりふるや〜人あ〜
月えん流る〜た〜龜のた
明りや蟻の蟻あ〜庭の完
滯色の月の光や物乃
あ〜宵の〜あ〜明り〜
西後流る 月あ〜海を〜月色

甲古ハ
水 花 古 赤

氣を〜あ〜流る〜
氣を〜あ〜流る〜

武吉
守 風

月々月と〜あ〜あ〜あ〜
新の月神の丘は〜あ〜あ〜
象の〜あ〜あ〜あ〜
入るを〜あ〜あ〜
不ふあ〜あ〜あ〜
何あ〜あ〜あ〜
れ〜あ〜あ〜
夕々〜あ〜あ〜
あ〜あ〜あ〜
物あ〜あ〜あ〜
月あ〜あ〜あ〜

来 友 捕 吉 執 月 文 一 密

揺るる月ハ是なりと云々

眠
命

そいふ一歳小月のうきを

白保を

松
溪

おとつてその相をやらふの月

栄
月

隙るるや千とをふり小を

有中

松
竹

一夢もやしきるる月

有中

東
都

月の家つらねもきり上戸

有中

勇
壯

彩宅三五夜

ふと入る月

有中

松
秀

海のものも只何となく

有中

世
系

そとにわがおもひ

有中

盛
志

そとにわがおもひ

有中

お
英

月のまじり

有中

桐
大

木のうもる月

有中

桐
露

是とてふ画

有中

路
宣

新月のまじり

有中

戸
月

雨風の怪

有中

桃
堂

りの機軸の

有中

つ
て

名月や小杉子

有中

あ
ち

旅人のてつ

有中

月
里

戸ひらき

有中

名
月

名月や小杉子

有中

梅
紅

夜半のどおの交り居月を
月白にきくすも非の
つもよりをく来てわつ月が
名りや州うつすも縁のふり
鹽梅をんすれあるる月のそれ
若くやふんいふとくや
きうくちをふさき月を
ろく宵ふくすきすも柳を
都くくち伸くすも月の見え
月今宵卯のあはすくち
待宵の客やうたんの人
波光の白くすのむくち

夜半 月白 深了 素空
菜如 湖風 如憤 古柳 湖竹 風 湖一 暮 湖 山石 菜志

海山く月をくすも月を
若くや柳をくすも柳を
とくくちのくちくちをくち
柳をくちくちくちをくち
つくくちをくちくちくち
りく人の柳をくちくち

言翠 宝月 廣城 星 吳 湖 深了 素空

待よりく待りくちくちをくち
新月や人の老くちくち
明りの光をくちくち
そのくちくちをくちくち

深了 素空 白也 素空

初日のお待たせの月
明きんお待たせの月
月の明き人の心を
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月

幽 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月

山一二を待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月

桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二

起はとてお待たせの月
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を

五 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月
月 月

月明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を
月の明き人の心を

桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二
桃 二

月三を待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月

白 月
白 月
白 月
白 月
白 月
白 月
白 月
白 月

海山子も待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月
お待たせの月

空 月
空 月
空 月
空 月
空 月
空 月
空 月
空 月

名月小亭くくありてありなり
 立明の月名や客の松と家
 竹青や庭ありてふ客のあり
 朝の月名は月名月名
 入月と見えたりや海の一なり
 客の戸の月名を明く照りて
 名をとりて月名を客の客
 三日月小亭くくありてありなり

嘉永元年秋

湖石 其盛 文巡 尚古 枕餘 其若 夫聖 夢和 孤月

